

国道134号線高浜台付近 植樹3事例（2012年10月24日撮影）

株式会社 研 進(社会福祉法人進和学園就業支援団体)

1. 国道134号線高浜台交差点 南側植樹状況（2009年12月7日 1,812本植樹）



植樹後、2年10ヶ月が経過し順調に成長している。年2回程の育樹(除草)作業を実施し雑草による被圧・遮光の悪影響を回避。
交差点からの下り坂・コンクリート塀に沿った側道植栽は、夏季の照り返しや海からの強風に晒される厳しい条件であるが、シャリンバイ(低木)、ネズミモチ(中木)、ヒメユズリハ(中木)等が枯れずに緑地帯を形成している。
奥の保安林部分は、タブノキ(高木)、ウバメガシ(高木)、ヒメユズリハ(中木)等が3～4mにも成長し、ほぼメンテナンス・フリー／自然淘汰に委ねられる段階に達している。

2. 国道134号線北側 千石河岸側道植樹状況（2010年12月15日 500本植樹）



植樹後1年10ヶ月が経過し、こちらも順調に成長している。樹高は、高木が1.0～1.50mに達している。道路際の低木は、一部脱落しており樹種を選んで補植することが望ましい。
セイタカアワダチソウやヨモギ等の雑草が繁茂し易く、歩道に面しているため今後も年2回程度の育樹(除草)や歩道に張り出した枝の切除による環境整備を行う予定である。
ゴミの投棄も目立つので清掃を行うことも必要と思われる。

3. 国道134号線北側 側道松並木エリア植樹状況（2012年3月26日 400本植樹）



植樹後7ヶ月が経過。シラカシやタブノキ等の高木が、枯死には至っていないが頭部の葉を落としている状態が目立つ。猛暑時の水不足やこの場所が強風に晒される環境であることが影響している可能性がある。但し、低木のトベラ、マサキ、シャリンバイは、葉も落とさず定着している。
すぐに雑草が繁茂する状況であり、今後、2～3年は、補植を行った上で、年3～4回の育樹(除草)作業を行い、経過を観察して行きたい。
臨海地域でマンションが隣接している松並木エリアへの潜在自然植生の植樹は、防災面でも意義深い事例である。樹高がある程度まで成長し安定するまでの間、メンテナンスに注力したい。